

サンフラワー

豊田発！国際ボランティア情報誌

SUNFLOWER

2007.1.1(季刊)
ISSN 0915-1710

No.95

このまちに暮らす私たち

「外国人だからできること」

山本貴美さん

(日本語サロンボランティア 台湾・台北出身)



高年大学の料理講座で講師を務める山本さん

人 懐かしい笑顔と快活あふれる語り口の山本貴美さん。市の語学相談員として小学校で子どもたちを支えるかたわら、TIAのボランティアグループ「日本語サロン」でボランティアとして日本語を教えている。

台湾で通訳をしていた貴美さんはご主人と結婚し、松平に移り住んだ。「来日してみると自分の日本語が全く通じない。三河弁もわからない。大変でした」。しかも大都会・台北で育った貴美さんにとって豊田の生活は大きなギャップ。ホームシックで数ヶ月おきに帰国していた。

や がて貴美さんは待望の女の子を授かる。初めての子育ては戸惑いの連続だ。「とにかく何かしゃべりたい、友達が欲しい気持ちでいっぱいでした」。しかし松平で同世代の人と知り合いになる機会は少なかった。そんな時に知ったのが子連れOKの日本語サロンだ。迷わず参加した。「友達がたくさんできました。教室の後はランチタイム。本当に楽しくてね、水曜日が待ち遠しかった」。

この日ばかりはいつもよりおしゃれをして家を出た。

こ れが転機となった。しばらくして貴美さんに市内の小学校で母国・台湾を紹介する機会が訪れたのだ。「このチャンスは絶対に逃したくない!と思いました」と貴美さん。台湾のインテリアや服など、



最愛のご主人と、台湾の正装で

念入りに準備して授業に臨んだ。話終えた後、子どもたちは『遊びに行ってもいい?』と口々に言いに来た。子連れで公園に行っても日本人のママ友ができず、悩んでいた時期でもあったので「本当に嬉しかった。日本人のお母さんたちは私のことをよく知らないだけなのかな、外国人だから遠慮しているのかな」と思うようになった。それからは料理教室や文化講座などで自ら積極的に故郷・台湾の話を紹介している。

さ らに貴美さんは保育園のPTA、語学相談員、日本語サロンのボランティアとエネルギーに活動してきた。わからないこと、勉強すべきことばかりで涙することもあった。そんな貴美さんを支えているのが「自分に負けたくない」との強い意志と、ご主人の「やってみれば?」の一言だ。「身近な人から励ましてもらえるのはとても嬉しい。ほめることをケチってはだめ」と貴美さんはいふ。

海 外出身者は日本の文化や習慣を知るのに時間がかかる。そんな時「外国人だから...できない」と周囲も自分も思いがち。「でも私は外国人だからこそ、できることがあると思いたいんです」。貴美さんのこの言葉には、多文化社会の可能性が秘められている。

(構成 / 福永文子)

国際化まちづくりセミナー開催

～ これからの視点:多様な市民+地域の魅力+共働～

去る11月28日に行われた豊田セミナー。90年から始まったこのセミナーでは、国際交流・国際協力・国際理解教育など様々なテーマを取り上げ、近年では多文化共生に特化し、全国から参加者を得るなど常に新しい学びの場を提供してきました。今年も、芸術・企業・行政・ボランティアと異なる分野で活躍している人を招き、昨今ますます声高に唱えられるまちづくりの中で、国際化に必要なエッセンスやアイデアを共有しました。

「崖っぷち」から

午前中は、金沢市助役兼金沢21世紀美術館館長の蓑豊さんを基調講演にお迎えしました。「美術館が街をかえる」と題した話から、設立2年で入館300万人突破を成し遂げ、現代美術への貢献はもとより地元の経済界との連携によって、活気溢れる金沢の街をつくった秘策を学ぶことができました。

美術だけではなく、「まち」という「大きな器」の中で、文化・子ども・地域など多様な要素を大胆に活用した美術館運営は、そのまま国際化にも通じる内容。印象的だったのは、現在成功を収めている数々の独創的な試みは「崖っぷち」状態から生み出されたものであるということ。蓑さん始め、スタッフが、現状に甘んじる



熱の入った基調講演の様子

ことなく日々「危機感」を持って、美術館を含めたまちづくりに対峙してきたことです。スーパー美術館たる所以は、この危機意識と弛まぬ努力・挑戦にあり、真の国際化への真剣な取り組みと重なる思いがしました。

多様な分科会

午後からは、3つの分科会に分かれ、企業・ボランティア・国際交流協会から関係者を招き、意見交換を行いました。地域の人々に愛され、ホスピタリティのあるまちづくりとそれに伴う環境整備、鉄道や地元産業など既にある豊かな「まちの資源」の活用の大切さを再確認した第1分科会。充実するボランティア活動紹介や外国籍市民からの発言を受け、質問が相次いだ第2分科会。第3分科会は多言語相談・ボランティアコーディネーション・外国人参画プログラム等で今最も注目を浴びている東京都武蔵野市国際交流協会の先進的な事業の報告と、各分科会で参加者が熱心に聞き入り、パネルトークへと進みました。

ステップバイステップ

午後の会場設営は、「車座の形」にこだわりました。司会者・パネラー・参加者が発言する機会を設けて、異

なる分野・立場を超えた国際化への様々な視点が「平場」で共有されるような雰囲気を醸し出したかったからです。

本セミナーから得たものを参加者が各人のフィールドで活かしていくことはもちろんですが、07年度に移転をし、中心市街地の仲間入りをするTIAも、皆さんの「声」に傾聴し、その期待に応え、これから多くの方と共働(*)することが肝要です。

蓑さんが力説していた「まちとともにステップバイステップで成長する」という言葉はまさにこれからのTIAの基本スタンス。国籍問わず、文化的背景の異なる多様な市民や魅力的な地域の自然・伝統・文化の「交差点」となるような国際化の拠点を目指します。
(構成 / 竹田敦子)

(*)豊田市では関係機関が「共に行う」という意味で「共働」という文字を使います。



パネルトークは講師陣も参加者も車座!

「愛・地球博」豊田市フレンドシップコーナー(その11)

～平成18年度とよた国際交流市民事業助成金交付団体決定!～

万博の継承事業としてTIAがサポートする国際交流・国際協力事業「とよた国際交流市民事業」への助成金交付の審査会を実施し、下記2団体の下記事業への助成金交付を決定しました。

- ・藤岡・パプアニューギニア友好協会「藤岡地区とパプアニューギニア国との友好事業」
- ・とよたらボパーティ「豊田ひとつしかない地球こども広場」

2004年の7月から始まったこの「愛・地球博」豊田市フレンドシップコーナー、今回で最終になり、次号からはまた新たな事業についての情報をお届けしていきます。

(構成 / 塚本江美)



子ども達(高嶺小学校)が書いたフレンドシップ

☆ TIAとTIAボランティアの活動報告 ☆

10月

- 1日 日本語ボランティア養成講座開始 TIA
〔定員20人のところ多数の申込みがあり、35人で開講。全9回11月26日まで 35人〕
- 4日 外国人集住都市会議幹事会
〔各地域ブロック会議におけるまとめと報告 事務局1人〕
- 7日 TIA日本語講座後期開講 TIA
〔定員を大きく超える83人が登録。特に入門クラスの受講者が増加 89人〕
国際理解教育セミナー「まるごと中国講座パート2」 TIA
〔中国茶を通し中国の文化・歴史を学び交流を図る 16人〕
- 10日 中国語通訳派遣対応 TIA
〔中国籍市民の子ども検診での通訳に中国語相談員を派遣 事務局1人〕
- 11日 日本語サロン開講式 日本語サロン
〔後期開講、53人が登録。託児は初日で定員に 53人〕
豊田市多文化共生推進協議会全大会
〔各部会からの報告と今後の行動案・国への提言などを協議 事務局3人〕
- 13日 とよた国際交流市民事業助成金審査会 TIA
〔応募のあった2件の事業について第2次プレゼンテーション審査を開催 審査員・事務局5人〕
- 14日 豊田市外国人災害サポートボランティア 最終回 TIA
〔やさしい日本語の専門家を招いた研修会を実施した後、受講者24人に修了証を授与 32人〕
- 15日 TIAボランティアグループ代表者会議 TIA
〔12月3日「ボランティアの集い」の内容について協議 ボランティア8人・事務局3人〕
- 16日 アップウイズビーブル 来豊
〔72家族によるホームステイ受け入れ・12ヶ所の地域活動・ショーと交流会を実施 受け入れ83人〕
- 20日 第7次総合計画審議会 都市分科会
〔都市の国際化などについて少人数グループにて討議 事務局1人〕
- 21日 ことばと文化のサロン「挑戦!韓国宮廷料理」 TIA
〔日本語教室の受講者を講師に招き、韓国料理の調理実習と韓国文化の話を聞く 22人〕
- 22日 アップウイズビーブル交流会 TIA
〔メンバーによるショーと交流会をJAホールにてオープンハートが開催約400人が参加〕
- 25日 中部管区警察局広域緊急援助合同訓練 TIA・日本語サロン
〔日本語サロンの学習者・指導者8人が列車からの脱出訓練に参加 事務局1人〕
第3回国際協国際理解委員会 TIA
〔今年度の活動報告集作成についての協議 事務局1人〕
- 26日 不就学実態調査委員会
〔調査結果の報告と不就学の子どもへの対応を協議 事務局1人〕
- 27日 外国人集住都市会議全体会
〔11月の東京会議に向けて最終確認 事務局1人〕
豊田地域看護専門学校での研修運営 TIA
〔2年生38人を対象に、多様性をテーマとしたワークショップ形式の講座を行う 事務局2人〕
第2回タイランド講座 ほづみ会
〔暁の家スタッフのタイ人青年を囲み、交流を通じて「共に生きる」ことを学ぶ 29人〕
- 30日 災害時多言語情報作成ツール説明会
〔(財)自治体国際化協会主催の会に市や地域FM局の担当者と参加 事務局1人〕

11月

- 11日 アップウイズビーブル反省会
〔団体の事務局とホストファミリー、オープンハートが意見交換 15人〕
サッカー大会ボランティア説明会 TIA
〔翌日の大会の運営方法についてスタッフ・ボランティア共に最終確認を行なう 8人〕
- 12日 第3回青少年国際交流サッカー大会in豊田 TIA
〔豊田市及び近隣の青少年160人が参加、フットサルを通じて交流を深める 200人〕
ボーリング大会 Alpha
〔ボランティアグループの企画、受講者とボランティアの親睦を深める〕
- 17日 第7次総合計画審議会 全体会
〔分科会報告と全体協議 事務局1人〕
- 18日 桜花学園ホームステイ受け入れ
〔韓国留学生14人を1泊2日で受け入れ、ホストファミリー14家族〕
- 19日 外国人医療支援グループ検診会 外国人医療支援グループ
〔保見団地にてブラジル人学校等に通う子どもを対象にした健康相談会を実施 85人〕
- 21日 外国人集住都市会議東京会議
〔18都市の市長が集まり「よっかいち宣言」を採択、国・経団連に提言書を手渡す 事務局2人〕
- 26日 日本語ボランティア養成講座 最終日 TIA
〔全9回の講座が終了。21人が日本語サロン・Alphaに見学申込。今後の登録・活動に繋げる〕
サッカー大会反省会 TIA
〔12日に実施した大会の反省と来年度の実施について話し合う 2人〕
- 28日 第17回地域の国際化豊田セミナー「国際化まちづくり～これからの視点:多様な市民・地域の魅力+協働」 TIA
〔金沢21世紀美術館館長・梶野氏を招き、各方面から国際化に従事する専門家を囲んだ 105人〕
- 29日 災害時語学サポーター育成のためのテキストに関する説明会
〔愛知県国際交流協会主催。災害時の語学ボランティアの育成方法について学ぶ 事務局1人〕

12月

- 1日 DV研修
〔愛知県委託事業あいち男女共同参画財団女性問題相談員ネットワークのシンポジウム・分科会に出席 事務局1人〕
- 2日 日本語ボランティアシンポジウム2006
〔TNN/NIC主催。日本語学習者の体験談を通してボランティアのあり方を学ぶ 事務局1人〕
- 3日 TIAボランティアの集い TIA
〔豊田理事長の講演、座談会、交流イベントを開催し、ボランティアの交流・親睦を深めた 46人〕
- 10日 日本語教室開講式 Alpha
〔開講式の後に恒例のもちつきを行い、今年の活動を締めくくる 130人〕
- 12日 外国籍児童生徒教育支援体制モデルに関する保見連絡協議会
〔主に保見地区で外国籍子どもに関わる学校や関係者間で協議。授業参観あり 事務局1人〕
- 16日 (～17日)避難所宿泊体験
〔トヨタボランティアセンター主催のイベントに「豊田市外国人災害サポートボランティア」のメンバーと参加 16人〕
- 21日 第7次総合計画審議会 全体会
〔11月に共有した内容のまとめと協議 事務局1人〕

エスニック探検隊

「豊田のリトルブラジル」 FOX MART

470-0353 豊田市保見ヶ丘5-1
TEL 0565-43-3081



普段はやさしいが、練習の時は
厳しいデビスさん。TIA主催の
サッカー大会でも大活躍。

「ここで何でもできるよ。」
と話してくれたのは、保見ヶ
丘にあるお店FOX TOWNで
働いているダシルバ・デビス
さん。その言葉、偽りではな
かった。確かにここFOX TOW
Nに入れば、1階のFOXマート
で食料や日用品はもちろん、2
階ではブラジルでいまだ人気
のCDやDVD、服や靴、香水も
手に入れることができる。さ
らにはポルトガル語対応のP
Cやデジタルカメラ、なんと航



クリームチーズ入りのチキンコロッケがお勧め。



スポーツクラブにはなんと武道場も!!!

空券も。レストランTertulliaでは
本物のシュラスコ、ファーストフ
ード店Padariaではブラジルのコロ
ッケやケーキを味わうこともでき
、なんと美容院まで完備。スポーツ
クラブに行けば各種マシンやスタ
ジオ、道場で健康的に汗を流す
こともできる。

IB FOXサッカークラブのコー

チという顔も持っているデビス
さん。屋上にはフットサルコート
があり、日本の子どもブラジルの子
も一緒に練習している。サッカー
を通じて、団地にいる子どもたち
にはまっすぐに育ってほしいとの
こと。ここからサッカーヒーロー
が誕生する日も近い。

(構成 / 兵藤隆裕)

こんにちは! ((TIA新しい職員を紹介)) 佐藤 健さん(1月1日付)

マガンダンアラウ!(こんにちは!)
2007年1月よりスタッフとしてTIAでお世話
になる佐藤です。今までの専門分野は「稲作」
だったのですが、自分の新たな可能性を求め
ての船出です。至らないことも多いとは思
いますが、どうぞよろしくをお願いします!

私は国際協力機構(JICA:ジャイカ)の
青年海外協力隊事業に参加し、二年半ほど
フィリピンの小さな島で活動しておりました。



フィリピン赴任先にて

今までの価値観がガラガラと崩れるような、
刺激的な活動の日々でした。善くも悪くもす
っかり生まれ変わってふるさと豊田へ戻り、
働くうちに気づかされたのは押し寄せる国内
国際化の波。ひとたび電車に乗れば聞き慣れ
ない言葉が飛び交い、そして私の働いていた
農業の現場にも中国人の研修生たちが来て
いました。「遠く離れたこの日本での暮らし、
彼らはどう感じているのだろうか?」フィリ
ピンで同じような境遇にいた自分が自然に考
える疑問でした。

フィリピン語に「ウータンナンローブ」と
いう言葉があります。直訳すると「心の借り」
というところですが、日本語では「受けた恩」
と訳せるでしょうか。その他にも「恥知らず」
や、年上の人を尊敬する表現等もあり、日本
人の精神文化に似ている部分もあります。協
力隊在籍中フィリピンの皆さんに助けられて
活動していました。TIAではその「心の借り」
を皆さんにお返しすべく、親身になって皆
さんに対応できるようにしていきたいです。

わたくしごとで恐縮ですが、協力隊時代に
知り合ったフィリピン人女性と2006年9月に

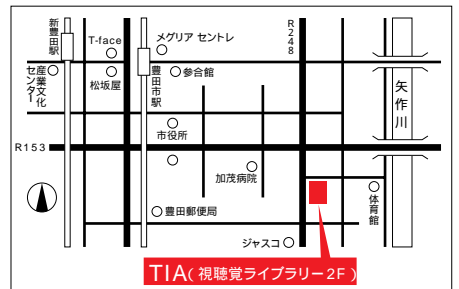


末永くお幸せに!!

結婚しました。彼女はAdyといいます。まだ
来日していないのですが、いずれここ豊田で
一緒に暮らしていくつもりです。フィリピン
から外へ出たことが無く、日本語も全く分
からない彼女です。日本での生活に困るこ
とも多いと思います。そんな彼女の悩みを聞
きながら、TIAの仕事を通していろんな国
々の人々に優しいまちづくりをしていこうと
思っています。

編集後記

みなさんあけましておめでとうござ
います。一年の計は元日にあり。
諺のとおり、何事も計画を立て
て行るのがうまくいくコツ。今年
もすでに1ヶ月が過ぎましたが、
新年の抱負は覚えていますか?
忘れてしまった人は思い出して
ください。今からでも遅くはあり
ません。終わりよければ全てよし
という諺も。(兵)



2007年1月1日発行(3,000部季刊)
編集・発行 財団法人豊田市国際交流協会(TIA)
〒471-0023 豊田市拳母町3-59
TEL(0565)33-5931 FAX(0565)33-5950
E-mail:tia@hm.aitai.ne.jp 月曜休
【ホームページ】http://www.tia.toyota.aichi.jp/